呂虔佩刀

魏志。呂虔字子恪。任城人。遷徐州刺史。請王祥爲別駕。民事一以委之。世多其能任賢。初虔有佩刀。工相之。以爲必登三公。可服此刀。虔謂祥曰。苟非其人。刀或爲害。卿有公輔之量。故以相與。祥爲三公。臨薨以刀授覽。曰汝後必興。足稱此刀。覽後奕世多賢才。興於江左。

訓讀 魏志。呂虔宇は子恪。任城の人なり。徐州の刺史に遷り。王祥を請ふて別駕と爲し。民事一に以て之に委ね。世其能く賢に任ずるを多とす。初虔佩刀あり。工之を相し。以爲く必ず三公に登り。此刀を服すべしと。虔、祥に謂て曰く。苟も其人に非れば。刀或は害を爲ん。卿は公輔の量あり。故に以て相與ふと。祥三公となり。薨ずるに臨み。刀を以て覽に授けて曰く。汝後必ず興らん。此刀に稱ふに足れりと。賢の後奕世賢才多く。江左に興る。

韓子孤憤

史記。韓非韓之諸公子也。喜刑名法術之學。其歸本於黄老。爲人口吃。不能道說。而善著書。與李斯俱事荀卿。非見韓之削弱。數以書諫韓王。王不能用。於是觀往者得失之

訓讀 史記。韓非は韓の諸公子なり。刑名法術の學を喜む。其歸、黄老に本く。人となり口吃して道說すること能はず。而して善く書を著はす。李斯と俱に荀卿に事ふ。非、韓の削弱せらるゝを見。數書を以て韓王を諫むれども。王用ふること

變。作孤憤五蠹內外儲說林說難十餘萬言。

【註解】【刑名法術】法律規則を以て民を治むる學なり今の所得法律學【歸】其本づくところ也歸趣なり【黃老】黃帝老子【往者】古來に同じ【孤憤五蠹】韓非著書の篇名

能はず。是に於て往者得失の變を觀。孤憤、五蠹。內外儲。說林。說難。十餘萬言を作れり。

梁鴻五噫

後漢梁鴻受業大學。家貧尙節介。因東出關。過京師。作五噫之歌。曰。陟彼北芒兮噫。顧覽帝京兮噫。宮室崔嵬兮噫。人之劬勞兮噫。遼遼未央兮噫。肅宗聞而非之。求鴻不得。乃易姓名。居齊魯之間。遂至吳。依大家皐伯通。居廡下。爲人賃舂。每歸妻爲具食。不敢於鴻前仰。舉案齊眉。伯通異之曰。彼傭能使其妻敬之如此。非凡人也。乃舍之於家。鴻潛閉著書十餘篇。卒於吳。

【註解】【節介】氣節操介【北芒】芒は邙に同じ洛陽の山【崔嵬】高き貌宮室の高大なを云ふ【遼遼】未央宮の高大なを云ふ蓋し天子宮みて民の貧しきを諷す【賃舂】人に賃使せられてうすつくなり【舉案齊眉】食膳を眉の高さにさゝげるなり

梁鴻の五噫

【訓讀】後漢の梁鴻。業を大學に受け。家貧にして節介を尙び。東關を出るに因て。京師を過ぎ。五噫の歌を作りて曰く。彼の北芒に陟り噫。帝京を顧覽するに噫。宮室崔嵬たり噫。人の劬勞する噫。遼遼なる未央噫と。肅宗聞て之を非として鴻を求むれども得ず。乃ち姓名を易へて。齊魯の間に居り。遂に吳に至り。大家皐伯通に依り。廡下に居て人の爲に賃舂す。歸る毎に。妻爲に食を具するに。敢て鴻の前に於て仰がず。案を擧げて眉に齊し。伯通之を異として曰く。彼傭能く其妻をして之を敬せしむること此の如し。凡人に非るなりと。乃ち之を家に舍す。鴻潛に閉ぢて書十餘篇を著はす。吳に卒す。

西門投巫

史記。魏文侯時。西門豹爲鄴令。豹到問民所疾苦。長老曰。苦爲河伯娶婦。以故貧。俗語不爲娶婦。水來漂溺人民。豹曰。至時幸來告。吾亦往送女。至其時。豹往會河上。三老官屬豪長者里父老皆會。其巫老女子。從弟子女十人。皆衣縉單衣。立大巫後。豹呼河伯婦視之曰。是女不好。煩大巫嫗爲報河伯。更求好女。使吏卒拘大巫嫗。投之河中。有頃曰。何久也。弟子趣之。凡投三弟子。豹曰。巫嫗女子。不能白事。煩三老爲入白之。復投三老河中。豹簪筆磬折。嚮河立。良久。又曰。三老不還。欲使廷掾與豪長者一人入趣之。皆叩頭血流。豹曰。狀河伯留客之久。若皆罷去。吏民大驚恐。

西門巫を投ず

訓讀 史記。魏の文侯の時。西門豹鄴の令となり。豹到りて民の疾苦する所を問ふ。長老曰く。河伯の爲に婦を娶ることを苦む。故を以て貧し。俗に語す。爲に婦を娶らざれば。水來りて人民を漂溺すと。豹曰く。時に至らば幸くは來り告げよ。吾亦往て女を送らんと。其時に至り。豹往て河上に會す。三老、官屬、豪長者里の父老皆會す。其巫は老女子。弟子の女十人を從へ。皆縉單衣を衣て。大巫の後に立つ。豹河伯の婦を呼び。之を視て曰く。是女好らず。大巫嫗を煩はす。爲に河伯に報せよ。更に好女を求めんと。吏卒をして大巫嫗を拘へ之を河中に投ぜしむ。頃くありて曰く何ぞ久しきや。弟子之を趣せと。凡そ三弟子を投ず。豹曰く。巫嫗は女子。事を白すこと能はず。三老を煩はす。爲に入りて之を白せと。復三老を河中に投ず。豹簪筆磬折し。河に嚮ふて立ち。良久うして。又曰く。三老還

從是不敢復言何伯娶婦。豹即發民鑿十二渠。引河水灌民田。皆得水利。民人足富。豹名聞天下。澤流後世。

【註解】【爲河伯娶婦】河伯は河の神なり毎歳百姓に賦歛して錢數百萬を收め其二三十萬を以て婦人を購ひ之を水中に投じて河伯のため婦を娶ると稱し其餘の錢は三老廷掾祝巫と分ち取るなり【漂溺】田廬を漂沒し人民を溺死せしむなり【至時】河伯娶婦の時なり【豪長】其土地のかしらだちし者【巫】祝神に事ふる女【縉單衣】きぬのひとへ【三老】鄉の長老三人敎化を掌る官屬【狀】其理由を審知するなり【罷去】職を罷めて退けとなり【簪筆】毛を以て簪を裝ふ禮服なり【磬折】腰を曲るなり【廷掾】官屬の長

らず。廷掾と豪長者一人とをして入りて之を趣さしめんと欲すと。皆叩頭血流る。豹曰く。河伯、客を留るの久しきを狀せり。若皆能め去れと。吏民大に驚恐し。是より敢て復河伯婦を娶ることを言はず。豹即ち民を發して。十二渠を鑿ち。河水を引き。民田に灌ぎ。皆水利を得。民人足富し。豹の名天下に聞へ。澤後世に流る。

何謙焚祠

晉書。何謙字恭子東海人。從謝玄征伐。驍果多權略。舊注云。謙不畏神祠。遇有靈廟。皆焚之。

【註解】【驍果】驍勇果敢

孟嘗還珠

後漢孟嘗字伯周。會稽上虞人。遷合浦太守。郡不產穀實。

何謙祠を焚く

【訓讀】晉書。何謙字は恭子。東海の人。謝玄に從ひ征伐す。驍果にして權略多し。舊注に云ふ。謙、神祠を畏れず。靈廟あるに遇へば皆之を焚くと。

孟嘗珠を還す

【訓讀】後漢の孟嘗字は伯周。會稽上虞の人なり。合浦の太守に遷る。郡、穀實を產

而海出珠寶。與交趾比境。常通商販。貿羅粮食。先時宰守。並多貪穢。詭人採求。不知紀極。珠漸徙於交趾郡界。行旅不至。人物無資。貧者餓死於道。甞到官。革易前弊。求民病利。未踰歲。去珠復還。百姓皆反業。商貨流通。稱爲神明。

【註解】【商販】行商の人【貿羅】貿易羅賣【宰守】土地を守る官吏【貪穢】財物をむさぼりて其行ひをけがすなり利は利益なり求は其理由を尋ねるなり【去珠復還】交趾の界にうつりし後再び合浦にかへるなり【神明】神として之を崇信す

せず。而して海珠寶を出し。交趾と境を比し。常に商販を通じ。粮食を貿羅す。先時の宰守並に多く貪穢にして。人を詭めて採求し。紀極を知らず。珠漸く交趾の郡界に徙り。行旅至らず。人物資無く。貧者道に餓死す。甞て官に到り。前弊を革易し。民の病利を求め。未だ歲を踰ずして。去珠復還り。百姓皆業に反り。商貨流通し稱して。神明となす。

劉昆反火

後漢劉昆字桓公。陳留東昏人。建武初。除江陵令。時縣連年火災。昆輙向火叩頭。多能降雨止風。稍遷弘農太守。先是崤黽驛道多虎災。行旅不通。昆爲政三年。仁風大行。虎皆負子渡河。帝異之。徵爲光祿勳。詔問昆前在江陵反風滅火。後守弘農。虎北渡河。行

劉昆火を反す

【訓讀】後漢の劉昆字は桓公。陳留東昏の人なり。建武の初に江陵の令に除せらる。時に縣連年火災あり。昆輙ち火に向つて叩頭すれば。多く能く雨を降し風を止む。稍弘農の太守に遷る。是より先。崤黽の驛道虎災多く。行旅通せず。昆政を爲すこと三年。仁風大に行はれ。虎皆子を負ふて河を渡る。帝之を異とし。徵て光祿勳となす。詔して昆に問ふ。前に江

何德政而致是事。昆對曰。偶然耳。左右笑其質訥。帝歎曰。此長者之言。命書諸策。

【註解】【偶然】おもひかけなきことなり【質訥】かざりけのなき也【長者】有德者

陵に在りて。風を反し火を滅し。後弘農に守とし。虎北河を渡る。何の德政を行ふて。是事を致すやと。昆對へて曰く。偶然のみと。左右其質訥を笑ふ。帝歎じて曰く。此乃ち長者の言なりと。命じて諸を策に書せしむ。

亮遺巾幗

晉書。諸葛亮帥衆十餘萬。壘于渭之渭水南原。天子遣護軍秦朗。督步騎二萬。受宣帝節度。朝廷以亮遠寇。利在急戰。每命帝持重。以候其變。亮數挑戰。帝不出。因遺帝巾幗婦人之飾。帝怒。表請決戰。天子不許。乃遣衞尉辛毗。杖節以制之。亮復挑戰。帝將出兵以應之。毗杖節而立軍門。帝乃止。對壘百餘日。會亮卒。

【註解】【天子】魏の明帝【宣帝】司馬懿【巾幗】婦人の頭上に纏ふもの司馬懿を婦人に擬して其怯弱を嘲けるなり【制之】司馬懿の出戰を止む

訓讀 晉書。諸葛亮衆十餘萬を帥ゐ。渭の渭水の南原に壘す。天子護軍秦朗を遣はし。步騎二萬を督し。宣帝の節度を受けしむ。朝廷亮遠く寇し。利、急戰に在るを以て毎に帝に命じて持重し。以て其變を候はしむ。亮數戰を挑むも帝出でず。因て帝に巾幗婦人の飾を贈る。帝怒り。表して決戰せんと請ふ。天子許さず。乃ち衛尉辛毗を遣はし。節を杖き以て之を制せしむ。亮後戰を挑む。帝將に兵を出し以て之に應ぜんとするも。毗節を杖て軍門に立つ。帝乃ち止む對壘百餘日會亮卒す。

備失匕箸

蜀志。先主劉備字玄德。涿郡涿縣人。漢中山靖王勝之後。少孤。與母販履織席爲業。舍東南角籬上。有桑樹生。高五丈餘。遙望見童童如小車蓋。或謂當出貴人。先主少時。與諸小兒於樹下戲言。吾必當乘此羽葆蓋車。先主垂手下膝。顧自見其耳。好交結豪俠年少爭附之。靈帝末。黃巾起。州郡各舉義兵。先主率其屬討賊有功。除安喜尉。累遷豫州牧。從曹公還許。曹公從容謂曰。今天下英雄。惟使君與操耳。本初之徒。不足數也。先主方食失匕箸。本初袁紹字。

注解【童童】枝葉の盛なる貌【車蓋】車上のきぬが【羽葆蓋身】羽毛を飾りし蓋車王公の乘るところさ【交結】人と交はること【豪俠少年】意氣ゆつよきわかもの【黃巾】張角の軍三十六萬と號す【曹公】曹操【許】靈帝の一時都せし地【從容】おちつきたる貌【使君】劉備を指す【失匕箸】食物をはさむはしなり時に雷鳴あり劉備之に驚くまれして故意に怯懦なよそほふ也

備匕箸を失す

訓讀 蜀志。先主劉備字は玄德。涿郡涿縣の人なり。漢の中山靖王勝の後。少うして孤なり。母と履を販ぎ。席を織りて。業となす。舍の東南角の籬上に。桑樹あり て生ず。高五丈餘。遙に望めば。童童として小車蓋の如きを見る。或謂ふ。童童に貴人を出すべしと。先主少き時。諸小兒と樹下に於て戲言す。吾必ず當に此羽葆蓋車に乘るべしと。先主手を垂れば膝を過ぎ。顧れば自ら其耳を見る。交結を好み。豪俠の少年爭ひて之に附す。靈帝の末。黃巾起り。州郡名義兵を擧ぐ。先主其屬を率ゐ。賊を討ちて功あり。安喜の尉に除せられ。豫州の牧に累遷し。曹公に從ひ。許に還る。曹公從容として謂て曰く。今天下の英雄惟使君と操とのみ。本初の徒は數ふるに足らずと。先主方に食し匕箸を失ふ。本初は袁紹が字なり。

張翰適意

晉書。張翰字季鷹。吳人。有清才。善屬文。而縱任不拘。時人號爲江東步兵。既入洛。齊王冏辟爲大司馬東曹掾。翰因見秋風起。乃思吳中菰菜蓴羹鱸魚鱠。曰。人生貴得適志何能羈宦數千里。以要名爵乎。遂命駕而歸。俄而冏敗。人皆謂之見機。或曰。卿乃可縱適一時。獨不爲身後名邪。答曰。使我有身後名。不如即時一盃酒。時人貴其曠達。

【註解】【縱任】心まかせにすること【步兵】阮籍なり云ふ也【菰菜】一名蔣水草也【蓴羹】じゅんさいのあつもの【鱸魚鱠】すゞきのなます【羈宦】官につながれて遠地にあること【名爵】名譽爵祿【見機】事を機先に知る也

陶潛歸去

晉陶潛字元亮。潯陽人。大司馬侃曾孫。少懷高尚。博學善屬文。穎脫不羈。任眞自得。爲

張翰の適意

訓讀 晉書。張翰字は季鷹。吳の人なり。清才あり。善く文を屬す。而して縱任拘らず。時人號して江東の步兵となす。既に洛に入り。齊王冏辟て大司馬東曹の掾となす。翰秋風の起るを見るに因り。乃ち吳中の菰菜、蓴羹、鱸魚鱠を思ふて曰く。人生は志に適ふを得るを貴ぶ。何ぞ能く數千里に羈宦し。以て名爵を要めんやと。遂に駕を命じて歸る。俄にして冏敗る。人皆之を機を見ると謂ふ。或曰く。卿乃ち一時に縱適すべきも。獨身後の名を爲さずやと。答へて曰く。我をして身後の名あらしむるは。即時一盃の酒に如かずと。時人其曠達を貴ぶ。

陶潛の歸去

訓讀 晉の陶潛字は元亮。潯陽の人なり。大司馬侃が曾孫。少うして高尚を懷き博學にして善く文を屬し。穎脫不羈。眞に

鄉隣所貴。嘗著五柳先生傳。以自況。時人謂之實錄。爲彭澤令。在縣。公田悉令種秫穀。曰。令吾常醉於酒足矣。妻子固請種秔。乃使一頃。五十畝種秫。五十畝種秔。素簡貴不私事上官。郡遣督郵至縣。吏白。應束帶見之。潛歎曰。吾不能爲五斗米折腰。拳拳事鄉里小人邪。即解印綬去縣。乃賦歸去來。後徵著作郎。不就。

任せて自得し。郷隣の爲めに貴ばる。嘗て五柳先生の傳を著はし。以て自ら況す。時人之を實錄と謂ふ。彭澤の令となり。縣に在りて。公田に悉く秫穀を種ゑしめ。曰く吾をして常に酒に醉しめば足れりと。妻子固く秔を種んと請ふ。乃ち一頃の五十畝に秫を種ゑ。五寸畝に秔を種ゑしむ。素より簡貴。私に上官に事へず。郡、督郵を遣はし。縣に至らしむ。吏白す。應に束帶して之に見ゆべしと。潛歎じて曰く。吾五斗米のために。腰を折ること

註解【穎脫】才氣するどく人にすぐる也【任眞】心の自然にまかせて【自況】我身にかざりけなきこと引あてる【秫】もちあは酒を也【秔】かもすに用ふ【一頃】百畝なり【簡貴】簡率にして自ら貴ぶ【督郵】みまはり役人【束帶】禮服を着る也【五斗米】わづかの俸給と云ふ義なり

王允千里

後漢王允字子師。大原祁人。郭林宗見而奇之曰。王生一日千里。王佐才也。遂與定交。允性剛稜疾惡。初懼卓豺狼。故折節圖之。卓既殲滅。自謂

能はず。拳拳として鄉里の小人に事へんやと。即ち印綬を解て縣を去り。乃ち歸去來を賦し。後著作郎に徵するも就かず。

王允千里

訓讀後漢の王允字は子師。大原祁の人。郭林宗見て之を奇として曰く。王生は一日千里。王佐の才なりと。遂に與に交を定む。允性剛稜惡を疾む。初卓が豺狼を懼れ。故に節を折て之を圖る。卓既に殲

無復患難。仗正持重。不循權宜之計。羣下不甚附之。反爲卓將李傕所殺。

【註解】【一日千里】千里の駿馬にたとへて云ふ【王佐】天子をたすくるオなり【剛稜】心剛直にして威稜あり【滅】ころし【權宜】權變宜きつくす【群下】多くの部下に從ふ【疾惡】惡人をにくむ【卓】漢の逆臣董卓【折節】心を屈して【殲滅】し。自ら謂く後患難無しと。正に仗り重を持し。權宜の計に循はず。群下甚だ之に附かず。反つて卓が將李傕の爲に殺さる。

黃憲萬頃

後漢黃憲字叔度。汝南愼陽人。世貧賤。父爲牛醫。陳蕃周擧常相謂曰。時月之間。不見黃生。則鄙吝之萌。復存乎心。及蕃爲三公。歎曰。叔度若在。吾不敢先佩印綬。郭林宗少遊汝南。先過袁閎。不宿。而退從憲。累日方還。或問之。林宗曰。奉高之器。譬諸汎濫。雖清而易挹。叔度汪汪若千頃陂。澄之不清。淆之不濁。不可量也。

【訓讀】後漢の黃憲字は叔度汝南愼陽の人なり。世貧賤にして。父は牛醫たり。陳蕃周擧常に相謂て曰く。時月の間。黃生を見ざれば則ち鄙吝の萌復心に存すと。蕃三公となるに及び。歎じて曰く。叔度若し在らば吾敢て先づ印綬を佩びずと。郭林宗少きとき。汝南に遊び。先づ袁閎に過り。宿せずして退き。憲に從へば。日を累ねて方に還る。或之を問ふ。林宗曰く。奉高の器を諸を汎濫に譬ふ。清しと雖も挹み易し。叔度は汪汪として千頃の陂の若し。之を澄せども清まず。之を濁せども濁らず。量るべかずと。

【註解】【時月】しばらくの意なり【鄙吝之萌】いやしき心起ること【奉高】袁閎の字【汎濫】側出を汎泉と云ひ正出を濫泉と云ふと汎

濫は蓋し泉水なり【易挹】其器量の小なるを云ふ【汪汪】水のひろき貌なり【陂】池なり

史魚黜殯

家語曰。衛大夫蘧伯玉之賢。靈公不用。彌子瑕不肖。反任之。史魚驟諫不從。將卒。命其子曰。吾在朝不能進蘧伯玉退彌子瑕。是不能正君也。生不能正君。死無以成禮。我死汝置屍牖下。於我畢矣。其子從之。靈公弔焉。怪而問之。其子以其父言告公。公愕然失容曰。是寡人之過也。史魚生時。恒欲進賢而退不肖。及其死。又以屍諫。可謂至忠矣。命之殯於客位。進蘧伯玉爲上卿。退彌子瑕。孔子聞之曰。古之列諫者。死則已矣。未有若史魚死而屍諫。忠感其君者也。可不謂直乎。

註解【史魚】子鰌字は子魚【牖下】まどの下【失容】おどろくあまりに其容儀をくづす也【殯】カリモガ

史魚殯を黜く

訓讀家語に曰く。衛の大夫蘧伯玉の賢。靈公用ゐず。彌子瑕の不肖。反つて之に任ず。史魚驟諫むれども從はず。將に卒せんとし。其子に命じて曰く。吾朝に在りて蘧伯玉を進め彌子瑕を退くること能はず。是君を正すこと能はざるなり。生て君を正すこと能はずんば。死して以て禮を爲すこと無し。我死せば汝屍を牖下に置け。我に於て畢れりと。其子之に從ふ。靈公弔し。怪みて之を問ふ。其子其父の言を以て公に告ぐ。公愕然として容を失ふて曰く。是寡人の過なり。史魚生ける時。恒に賢を進めて不肖を退けんと欲す。其死に及び。又屍を以て諫む。至忠と謂ふべしと。之に命じて客位に殯せしめ。蘧伯玉を進めて上卿となし彌子瑕を退けて之を遠ざく。孔子之を聞て曰く。古の列諫する者も。死すれば則ち已む。未だ史魚の若く。死して屍諫し。忠其の

リと訓す屍を棺に納め正殿に置く也【屍諫】屍を以ていさむ

子囊城郢

左氏傳。楚子囊將レ死。遺言謂二子庚一。必城レ郢。君子謂子囊忠。君薨不レ忘レ增二其名一。將レ死不レ忘レ衛二社稷一。可レ不レ謂レ忠乎。初楚共王疾。告二大夫一曰。不穀不德。若以二大夫之靈一。獲レ保二首領一以歿二於地一。請爲二靈若厲一。及レ卒。子囊

君を感ぜしむる者あらず。直と謂はざるべけんやと。

子囊郢に城く

訓讀 左氏傳。楚の子囊將に死せんとするや。遺言して子庚に謂ふ。必ず郢に城けと。君子謂らく子囊忠なり。君薨じて其名を增すことを忘れず。將に死せんとするや。社稷を衛ることを忘れず。忠と謂はざるべけんやと。初楚の共王疾む。大夫に告げて曰く。不穀不德なり。若し大

曰。君命以レ共。請諡二之共一。楚徙二都郢一。未レ有二城郭一。築レ城未レ訖。子囊欲レ訖未レ暇。遺言見レ意。

註解【子庚】楚の莊王の子なり【增其名】亡主の名譽を增すなり城を築くは即ち亡主の名をして益々尊からしむる所以【不穀】王公の謙稱穀は祿の意なり【大夫之靈】大夫の保護と云ふに同じ【保首領沒於地】其終を善くすること【請爲靈若厲】我死せば靈王若くは厲王と諡せよとなり諡法に曰く亂れて損ぜざる を靈と云ひ不幸を戮殺するを厲と云ふて共に良き諡號にあらず 【共】共は恭なり王自ふ恭謙の語を示す故に命ずるに共を以てすと 危亂の亡主に名くるところなり王自ら之を命するは謙遜自暴の語なり

夫の靈を以て首領を保ち以て地に歿するを獲ば。請ふ靈若くは厲となせと。卒するに及びて。子囊曰く。君命ずるに共を以てせり。請ふ之を共と諡せんと。楚都を郢に徙し。未だ城郭あらず。城を築きて未だ訖らず。子囊訖らんと欲して未だ暇あらず。故に遺言して意を見めす。

戴封積薪

後漢戴封字平仲。濟北剛人。舉賢良方正。對策第一。擢拜議郎。遷西華令。汝潁有蝗災。獨不入界。時督郵行縣。蝗忽大至。及去。蝗亦頓除。一境奇之。其年大旱。封禱請無獲。乃積薪坐其上。以自焚。火起而大雨暴至。遠近歎服。

註解【不入界】西華の境に入らず【禱請】天に

戴封薪を積む

訓讀 後漢の戴封字は平仲。濟北剛の人なり。賢良方正に舉げられ。對策第一。擢でられて議郎に拜し。西華の令に遷る。汝潁に蝗災ありしも。獨界に入らず。時に督郵縣を行り。蝗忽ち大に至り。去るに及びて蝗亦頓に除く。一境之を奇とす。其年大に旱し。封禱請するも獲ること無し。乃ち薪を積みて。其上に坐し。以て自ら焚んとす。火起りて大雨暴かに至り。遠近歎服す。

いのりて雨を乞ふ【自焚】自ら不德を責むるがため

耿恭拜井

後漢耿恭字伯宗。扶風茂陵人。少慷慨。多大略。有將帥才。永平末。爲戊己校尉。屯金蒲城。匈奴攻城。恭乘城搏戰。以毒藥傅矢。傳語匈奴曰。漢家箭神。其中瘡者必有異。因發强弩射之。虜中矢者。視創皆沸。匈奴相謂曰。漢兵神。眞可畏

耿恭井を拜す

訓讀 後漢の耿恭。字は伯宗。扶風茂陵の人なり。少うして慷慨大略多く。將帥の才あり。永平の末。戊己校尉となり。金蒲城に屯す。匈奴城を攻む。恭城に乘じて搏戰し。毒藥を以て矢に傳け。匈奴に傳語して曰く。漢家の箭は神なり。其中り瘡く者は必ず異あらんと。因て强弩を發して之を射る。虜矢に中る者創を視る

也。遂解去。恭以疏勒城旁有澗水可固。引兵據之。匈奴復攻恭。恭募先登數千人。直馳之。胡騎散走。遂擁絶澗水。恭於城中。穿井十五丈。不得水。吏士渴乏。笮馬糞汁而飲之。恭仰歎曰。聞昔貳師將軍拔佩刀刺山。飛泉涌出。今漢德神明。豈有窮哉。乃整衣向井拜禱。有頃水泉奔出。乃令吏士揚水以示虜。虜以爲神明。遂引去。後復攻恭。恭擊走之。數月食盡窮困。乃煮鎧弩。食其筋革。恭與士推誠同死生。故皆無二心。虜圍之不能下。闕寵上書求救。時肅宗用司徒鮑昱議。遣軍迎恭歸。復奏恭節過蘇武。宜蒙爵賞。遂拜騎都尉。

註解【搏戰】搏は手にて打つなり。こゝは迫り戰ふ【強弩】つよきいしゆみ。弩は機械の仕掛にて矢を發す【沸】きゝのはれあがる【澗水】谷に水あるなり【先登】さきがけ

に皆沸く。匈奴相謂つて曰く。漢の兵は神なり。眞に畏るべしと。遂に解き去る。恭疏勒城の傍に澗水あり。固むべきを以て兵を引き之に據る。匈奴復恭を攻む。恭先登數千人を募り。直に之に馳す。胡騎散走す。遂に澗水を擁絶す。恭城中に於て井を穿つこと十五丈水を得ず。吏士渴乏し。馬糞汁を笮りて之を飲む。恭仰ぎ歎じて曰く。聞く昔貳師將軍佩刀を拔きて山を刺し。飛泉涌出すと。今漢の德神明。豈窮まることあらんやと。乃ち衣を整へて。井に向ひ拜禱す。頃くありて水泉奔出す。乃ち吏士に令し。水を揚げ。以て虜に示す。虜以て神明と爲し。遂に引去る。後復恭を攻む。恭擊て之を走らす。數月食盡き窮困す。乃ち鎧弩を煮て。其筋革を食ふ。恭が士に與みする。誠を推して死生を同じうす。故に皆二心無く。虜之を圍みて下すこと能はず。闕寵上書して救を求む。時に肅宗司徒鮑昱が議を用ゐ。軍を遣はし。恭を迎へて歸す。後奏す。恭が節蘇武に過ぐ。宜し

【擁絕澗水】水道をふさぐ【貳師將軍】前漢の李廣利大宛の貳師城を取る故に名くいし【鎧弩】よろひとゆみ【筋革】武具の皮類を煮て食ひしなり【爵賞】時祿恩賞

汲黯開倉

前漢汲黯字長孺。濮陽人。其先有寵於古之衞君。至黯十世。世爲卿大夫。孝景時爲太子洗馬。以嚴見憚。武帝即位。黯爲謁者。河内失火。燒千餘家。上使往視之。還報曰。家人失火。屋比延燒。不足憂。河内貧人。傷水旱萬餘家。或父子相食。臣謹以便宜。持節發河内倉粟。以賑貧民。請歸節伏矯制罪。上賢而釋之。後爲主爵都尉。列於九卿。治務無爲。引大體。不拘文法。性倨少禮。面折不能容人之過。以數直諫。不得久居位。武帝曰古有社稷臣。如黯近之矣。大將軍青侍中。上踞厠視之。丞相弘

爵賞を蒙るべしと。遂に騎都の尉に拜せらる。

訓讀 前漢の汲黯字は長孺。濮陽の人なり。其先古の衞君に寵あり。黯に至りて十世。世卿大夫たり。孝景の時太子の洗馬となり。嚴を以て憚られ。武帝位に即き。黯謁者となり。河内火を失し。千餘家を燒く。上往て之を視せしむ。還り報じて曰く。家人火を失し。屋比延燒す。憂ふるに足らず。河内の貧人。水旱に傷はる萬餘家。或は父子相食む。臣謹みて便宜を以て貧民を賑はせり。請ふ節を歸し。矯制の罪に伏せんと。上賢として之を釋す。後主爵都尉となり。九卿に列す。治無爲を務め。大體を引き。文法に拘らず。性倨にして禮少く。面折して人の過を容るゝこと能はず。數直諫するを以て。久しく位に居ることを得ず。武帝曰く。古

宴見。上或時不冠。至黯不冠不見也

【註解】【衞君】六國の時衞の君弱くして唯衞君と稱せり【以嚴見憚】性行嚴正を以て人に畏れ憚からるゝなり【屋比】家屋の接近せるなり【父子相食】飢民相居りて肉を食ひ父子の親も顧みざるなり蓋し慘狀の甚しき形容【食粟】官倉の貯蓄【矯制】天子の命を矯むるなり【務無爲】無事に治むるなり【持節】節は天子の命を行ふために持するなり【便宜】火災視察の命を轉じて饑民救助を行ふはらゝ【文法】法律規則の如きもの【面折】まのあたり人を責むるなり字典に直に人の過失を指すこと【引大體】唯要領を取りて末節にかゝはらず【社稷臣】國と存亡を共にする大臣也【踞厠】牀邊の側にうづくまるなりカハヤにあらず

社稷の臣あり。黯が如きは之に近しと。大將軍青中に侍するとき。上厠に踞して之を視る。丞相弘宴見するに。上或は時に冠せず。黯に至つては冠せざれば見ず。

馮煖折券

馮煖券を折る

戰國策曰。齊人有馮煖者。貧乏不能自存。使人屬孟嘗君田文。願寄食門下。君受之。左右食以草具。居有頃。倚柱彈其劍。歌曰。長鋏歸來乎食無魚。君聞之食比門下客。有頃復彈鋏歌曰。長鋏歸來乎出無車。君爲之駕。比門下之車客。後復彈鋏歌曰。長鋏歸來乎無以爲家。君問煖有老母。使人給其食用無使之乏。後君

【訓讀】戰國策に曰く。齊人馮煖なる者あり。貧乏にして自ら存することを能はず。人を孟嘗君に屬せしめて曰く。願くは門下に寄食せんと。君之を受く。左右食はしむるに草具を以てす。居ること頃くありて柱に倚り。其劍を彈き。歌ふて曰く。長鋏歸來乎。食に魚無しと。君之を聞て食はしむること門下の客に比す。頃くありて復鋏を彈き歌ふて曰く。長鋏歸來乎出るに車無しと。君之が爲駕せしめ。門下の車客に比す。後復鋏を彈き。歌ふて

出記。問門下客。誰能爲文收責於薛者。煖署曰能。煖治裝載券契而行。辭曰。責畢收以何市而反。君曰。視吾家所寡有者。煖之薛。召諸民當償者悉來。合券。以責賜民。因燒其券。稱萬歲。反齊見君曰。臣竊計君宮中積珍寶。狗馬實外廐。美人充下陳。所寡有者義耳。竊爲君市義。矯命以責賜諸民。因燒其券。乃臣所以爲

君市義。後君就國於薛。民扶老携幼迎道中。君顧謂煖曰。先生所以爲文市義。乃今見之。

語解【煖】史記は馮驩に作る煖はダンの言あれども實はケエンなり【不能自存】自活の道なきなり【屬】言とす【受之】承諾して食客とするなり【左】たのむなり【右】孟嘗君の臣下【草具】菜蔬のみの粗食【長鋏】長劔なり之を彈するは音節を爲す也字典劔把の義無し【爲家】家計を立るなり【乎魚車家】四字古韻通用す【出記】帳簿を出す也【文】孟嘗君姓は田名は文【收

曰く。長鋏歸來乎。以て家を爲むること無しと。君煖に老母あるやと問ひ。人をして其食用を給せしめて。乏しからしむる無し。後君記を出し。門下の客に問ふ。誰か能く文が爲に責を薛に收むる者ぞと煖署して曰く。能くせんと。煖治裝し。券契を載せて行く。辭して曰く。責畢く收めば。以て何をか市ふて反らんと。君曰く吾家の有ること寡き所の者を視よと煖薛に之き。諸民當に償ふべき者を召して。悉く來らしめ。券を合せ責を以て民に賜ひ。因て其券を燒き。民萬歲と稱す。君に見へて曰く。臣竊かに計るに。君の宮中珍寶を積み。狗馬外廐に實ち。美人下陳に充つ。有る寡き所の者は義のみ。竊に君の爲に義を市はんとし。命を矯め。責を以て諸民に賜ひ。因て其券を燒く。乃ち臣が君の爲に義を市ふ所以なりと。後君國に薛に就けば。民老を扶け幼を携へ。道中に迎ふ。君顧みて煖に謂て曰く。先生文が爲に義を市ふ所以。乃ち今之を見ると。

責】責は債に同じ【薛】薛は孟嘗君オヒメと訓ず の封地なり【署】署名なり【治裝】たびのしたくをなす【券契】貸金の證券【以責賜民】貸金を悉く民に與ふ也【下陳】後房に同じ【折券】標題折券は常らず實は燒券とすべし

廉頗負荊

史記。廉頗爲趙將。藺相如拜上卿。位在頗右。頗曰。我爲將。有攻城野戰之大功。而相如徒以口舌爲勞。位居我上。且素賤人。吾羞爲之下。宣言曰。我見必辱之。相如聞不肯與會。每朝時常稱病。不欲與頗

訓讀 史記。廉頗趙の將となり。藺相如上卿に拜せられ。位頗の右に在り。頗曰く我は將となりて攻城野戰の大功あり。而して相如は徒らに口舌を以て勞をなし。位我上に居る。且素賤人なり。吾之が下たるを羞づと宣言して曰く我見ば必ず之を辱めんと。相如聞て與に會することを

爭列。已而出。望見頗。引車避匿。舍人諫曰。廉君宣惡言。而君畏匿恐懼。庸人尙羞之。況於將相乎。相如曰。公之視頗孰與秦王。曰不若也。相如曰。夫以秦王之威。而相如廷叱之。辱其羣臣。吾雖駑。獨畏廉將軍哉。顧念强秦不敢加兵於趙者。徒以吾兩人在也。今兩虎共鬪。勢不俱生。吾所以爲此者。先國家之急。而後私

肯んぜず。朝する時毎に常に病と稱して。頗と列を爭ふことを欲せず。已にして出で。頗を望見すれば。車を引て辟け匿る。舍人諫めて曰く。廉君惡言を宣して。君畏匿恐懼す。庸人だも尙之を羞づ。況んや將相に於てをやと。相如曰く。公の頗を視ること。秦王に孰與ぞや。曰く若ずと。相如曰く。夫秦王の威を以てすら。相如廷に之を叱し。其群臣を辱かしむ。吾駑なりと雖も獨廉將軍を畏れんや。顧み念ふに强秦敢て兵を加へざるは。徒吾

雖也。頗聞之。肉袒負荊。至門謝罪曰。鄙賤之人。不知將軍之寛至此。卒相與驩。爲刎頸之交。

註解【畏匿】おそれかくる【庸人】凡庸の人【視頗孰若秦王】廉頗と秦王いづれが強きと【不若】廉頗は秦王の強きに如かず【駑】劣努【兩人】廉頗と藺相如【肉袒負荊】はだぬぎいばらを負ふ蓋し自ら罪人に比ず【驩】歡に同じよろこぶ【刎頸】死生相共にせんとちかふなり

須賈擢髮

兩人の在るを以てなり。今兩虎共に鬪はゞ。勢俱に生きず。吾此を爲す所以は。國家の急を先にして。私讐を後にするなりと。頗之を聞き。肉袒荊を負ひ。門に至り。罪を謝して曰く。鄙賤の人將軍の寛なることの此に至るを知らざりきと。卒に相與に驩し。刎頸の交を爲せり。

史記。范雎字叔。魏人。遊說諸侯。欲事魏王。家貧無以自資。乃先事魏中大夫須賈。賈使齊。雎從。齊襄王聞雎辯口。乃使人賜金及牛酒。賈怒以爲雎以魏國陰事告齊。既歸以告魏齊。齊怒。使舍人笞擊雎。雎佯死。即卷以簀。置廁中。賓客醉更溺之。會齊醉。雎告守者。得出亡匿。更名姓曰張祿。夜見秦謁者王稽。稽知雎

訓讀史記。范雎字は叔。魏の人なり。諸侯に遊說して。魏王に事へんと欲す。家貧くして以て自ら資する無し。乃ち先づ魏の中大夫須賈に事ふ。賈齊に使して。雎從ふ。齊の襄王雎が辯口を聞き。乃ち人をして金及び牛酒を賜はらしむ。雎魏國の陰事を以て齊に告ぐと。齊怒り。舍人をして雎を笞擊せしむ。雎佯り死す。即ち卷くに簀を以てし。廁中に置き。賓客醉ふて更之に溺す。會齊

賢。載入秦。言於昭王。王拜爲客卿。遂爲相。封應侯。賈後使秦。唯微行。夜敝衣步見賈。賈驚曰。范叔無恙乎。留與座飲食。取綈袍賜之。唯取大車駟馬。爲賈御入相府。乃先入。賈待良久。問門下曰。范叔不出何也。門下曰。無范叔。乃吾相張君也。賈大驚。乃肉袒膝行。謝罪曰。賈不意君能自致於青雲之上。賈不敢復讀天下

醉ふ。唯守者に告げて。出亡伏匿するを得。名姓を更めて張祿と曰ひ。王稽に入り。夜秦の謁を奏に。王稽を見る。昭王に言ふ。賢を知り。客卿として賈を取り。留めて。之に與に賜ふ。座し。飲食せし。夜敝衣。歩して。賈を見て。驚き。微行し。雎が。大車駟馬を。御して。相府に。入り。門下に。問ふて曰。賈が。待つこと。良久し。に。雎が。應侯に。王に。拜して。載せて。客卿と。後づき。入り。綈袍

之書。與天下之事。賈有湯鑊之罪。請自屏於胡貉之地。唯君死生之。擢賈之髮以贖罪。尚未足。唯曰。汝罪有三耳。然所以得無死者。以綈袍戀戀。有故人之意。故釋公。

註解【資】仕途に就く費用也【陰事】秘密の事【魏齊】魏の宰相【笞擊】むちうつ【佯死】したるさまを【簀】すのこ即ち葦萩のよそほふ類をあみたるもの【溺】小便なり【守者】見張の番人【出亡】にげ出す【伏匿】ふしかくる【載】王稽が車にのせるなり

く。范叔出でざるは何ぞやと。門下曰く。范叔といふもの無し。乃ち吾相張君なりと。賈大に驚き。乃ち肉袒膝行し。君能く自罪を謝して曰く。賈意はざりき。君の書を讀み。天下の事に與からず賈湯鑊の罪あり。請ふ自らの地に屏かん。唯君之を死生せよ。賈が髮を擢き以て罪を贖ふも。尚未だ足らずと。雎曰く。汝が罪三あるのみ。然れども死無きを得る所以は綈袍戀戀として故人の意あるを以て

【綈袍】わたいれの衣なり【御】車馬を御す也【相府】宰相のやしき【膝行】ゐざりゆくなり貴人の前に罪を乞ふときの禮【擢髮】罪の多き髮の毛を擢いてかぞふべしとなり【故人之意】舊交なほ心もふ心

なり。故に公を釋すと。

子房取履

前漢張良字子房。其先韓人。嘗遊下邳圯上。有一老父。衣褐。至良所。直墮其履圯下。謂曰。孺子下取履。良愕然欲毆之。爲其老。廼强忍下取履。因跪進。父以足受之。笑去。復還曰。孺子可教。後五日平明。與我期此。良跪曰諾。及往。父已先在。怒曰。與老人期後何也。去。後五日蚤會。五日鷄鳴往。父又先在。復怒曰。去。後五日蚤來。五日良夜半往。有頃父亦來。喜曰。當如是。出一編書曰。讀是則爲王者師。後十年興。十三年孺子見我濟北穀城山下。黃石即我已。遂去不見。旦日視其書。廼太公兵法。

子房履を取る

訓讀 前漢の張良字は子房。其先は韓人なり。嘗て下邳の圯上に遊ぶ。一老父褐を衣たるあり。良が所に至りて。直に其履を圯下に墮し。謂つて曰く。孺子下りて履を取れと。良愕然として。之を毆んと欲せしが。其老たるがために。廼ち强忍し。下りて履を取り。因て跪き進む。父足を以て之を受け。笑ふて去り。復還りて曰く。孺子教ふべしと。後五日平明我と此に期せよと。良跪きて曰く。諾と。往くに及びて。父已に先在り。怒りて曰く老人と期し。後るゝは何ぞや。去れ。後五日蚤く會せよと。五日鷄鳴に往く。父又先在り。復怒りて曰く。去れ。後五日蚤く來れと。五日良夜半に往く。頃くありて。父亦來り。喜びて曰く。當に是の如くなるべしと。一編の書を出し

良異之。常習誦。後從高帝過濟北。果得黃石。取而寶祠之。良死。幷葬焉。

【註解】【圯】土橋の【褐】けごろも【孺子】我邦の俗にこぞうと云ふが如し【愕然】俄かにおどろく貌其無禮に驚き且怒る【强忍】まげてこらへしのぶ【平明】よあけ【太公】太公望【寶祠】たからぎはとしてまつるなり

釋之結韈

前漢張釋之字季。南陽堵陽人。以貲爲騎郎。事文帝。十年不得調。亡所知名。後拜廷尉。持議平。天下稱之。王生者。善爲黃老言。嘗召居廷中。公卿盡會立。王生老人。曰吾韈解。願謂釋之爲我結韈。釋之跪而結之。或讓王生。獨奈何廷辱張廷尉。王生曰。吾老且賤。自度終亡益於張廷尉。廷尉天下名臣。吾聊使結韈。欲以重之。諸公聞之。賢王生而重

て曰く。是を讀まば。則ち王者の師たらん。後十年にして興らん。十三年にして孺子我を濟北の穀城山下に見よ。黃石は即ち我のみと。遂に去りて見へず。旦日其書を視れば。廼ち太公の兵法なり。良之を異とし。常に習誦す。後高帝に從ひ。濟北を過ぎ。果して黃石を得。取りて之を寶祠し。良死して幷せ葬る。

釋之韈を結ぶ

【訓讀】前漢の張釋之。字は季。南陽堵陽の人なり。貲を以て騎郎となり。文帝に事ふ、十年調せらるを得ず。名を知らるゝ所なし。後廷尉に拜せられ。議を持すること平かにして。天下之を稱す。王生なるもの。善く黃老の言を爲す。嘗て召されて廷中に居り。公卿盡く會立す。王生は老人なり。曰く吾韈解けたりと。顧みて釋之に謂ふ。我爲に韈を結べと。釋之跪きて之を結ぶ。或王生を讓む。獨奈何ぞ廷尉を辱かしむ。王生曰く。吾老て且賤し。自ら度るに終に張廷

釋之。

註解【以貲】漢の制は錢五百萬を納れば常に郎たるを得【調】推舉なり【持議平】罪を判ずる公平なり【韈】たびなり【重之】張をして老人を憐むの名を成さしむ

郭丹約關

後漢郭丹字少卿南陽穰人。幼孤。孝順。後母哀憐之。爲鬻衣裝。買產業。後從師長安。買符入函谷關。乃慨然歎曰。丹不乘使者車。終不出關。既至京師。常爲都講。諸儒咸敬重之。後更始徵爲諫議大夫。持節使歸南陽。安集受降。果如其志。

註解【鬻良裝】機母己れの衣服を賣りて丹の爲に田宅を買ふ【符】關門の通券【使者】天子の命を奉じたる使【安集】人民をあつめやすんず【受降】叛民の降虜を受く

祖逖誓江

晉書。祖逖字士稚。范陽遒人。博覽書記。該涉古今。京師亂。避地淮泗。元帝以爲軍諮祭

尉に益無し。廷尉は天下の名臣なり。吾聊か韈を結ばしむるは。以て之を重んぜんと欲するなりと。諸公之を聞き。王生を賢として釋之を重んず。

郭丹關を約す

訓讀後漢の郭丹。字は少卿。南陽穰の人。幼にして孤となり。孝順なり。後母之を哀憐し。爲に衣裝を鬻ぎて產業を買ふ。後師に長安に從ひ。符を買ふて函谷關に入り。乃ち慨然として歎じて曰く。丹、

使者の車に乘らざれば終に關を出でずと既に京師に至り。常に都講となる。諸儒咸之を敬重す。後更始徵して諫議大夫と爲す。節を持し使して南陽に歸り。安集して降を受く。果して其志の如し。

祖逖江に誓ふ

訓讀晉書。祖逖字は士稚。范陽遒の人なり。書記を博覽して。古今に該涉す。京師亂れ地を淮泗に避く。元帝以て軍諮祭

酒。逖以社稷傾覆。常懷振復之志。遷舊威將軍豫州刺史。仍將本流徙部曲百餘家渡江。中流擊楫而誓曰。祖逖不能清中原而復濟者。有如大江。辭色壯烈。衆皆慨歎。

【註解】【該涉】ひろく【社稷傾覆】晉室五胡の亂によりて中原を失ふ【振復】振起して回復するなり【有如大江】中原回復の功無くして再び江水を渡らば神明之を罰すべしとなり

婁敬和親

酒と爲す。逖社稷の傾覆を以て。常に振復の志を懷き。舊威將軍豫州の刺史に遷る。仍て本の流徙の部曲百餘家を將ゐ。江を渡り。中流にして楫を擊ち。誓ふて曰く。祖逖中原を清むること能はずして。復濟ることあらば。大江の如きことあらんと。辭色壯烈衆皆慨歎せり。

婁敬の和親

前漢高祖在洛陽。婁敬說曰。陛下都洛陽。豈欲與周比隆哉。然取天下與周異。臣竊以爲不侔矣。且秦地被山帶河。四塞以爲固。卒然有急。百萬之衆可具。因秦之故資。甚美膏腴之地。此所謂天府。陛下入關而都之。山東雖亂。秦故地可全而有。此亦扼天下之亢而拊其背也。即日駕西都關中。賜敬姓劉氏。拜郎中。號

【訓讀】前漢の高祖。洛陽に住り。婁敬說て曰く。陛下洛陽に都するは。豈周と隆を比せんと欲するか。然れども天下を取ること周と異なり。臣竊かに以爲く侔しからずと。且秦の地は。山を被り河を帶び。四塞以て固と爲す。卒然急ありとも。百萬の衆具ふべし。秦の故資に因らば甚美膏腴の地。此所謂天府なり。陛下關に入りて之に都せば。山東亂ると雖も秦の故地全うして有つべし。此亦天下の亢を扼して。其背を拊つなりと。即日駕して西

奉春君。封二建信侯一。是時冒頓單于兵強。控弦四十萬騎。數苦二北邊一。上患之。問レ敬。敬曰。陛下誠能以二適長公主一妻二單于一。厚奉遺之。彼必爲二閼氏一。生レ子必爲二太子一。使辨士風諭以禮節。冒頓在固爲二子壻一。死外孫爲二單于一。豈聞外孫敢與二大父一抗禮哉。上欲レ遣二長公主一。呂后泣曰。妾唯一女。奈何棄二之匈奴一。乃取二家人子一爲二公主一。妻二單于一。使二敬往結和親約一。

【注解】【故資】ふるき もとひ【膏腴】土地の肥沃なり【天府】府はあつまるの義萬物の自然聚る所【亢】喉に同じの【單于】匈奴にて帝王の義【控弦】ゆみをひくの義射術を善くする者【適長公主】皇后所生の長女【奉遺】物なお【閼氏】匈奴にて皇后といふ義【外孫】むすめの子

白起坑降

史記。白起郿人。善用レ兵。事二秦昭王一。號二武安君一。秦攻二趙壘一。數挑レ戰。趙將廉頗堅壁不レ出。秦使二人爲一反間一曰。秦獨畏二馬服

關中に都し。敬に姓劉氏を賜ひ。郎中に拜し。奉春君と號し。建信侯に封ず。是時冒頓單于。兵強く控弦四十萬騎數北邊を苦しむ。陛下誠に能く適長公主を以て單于に妻し。厚く之に奉遺せば。彼必ず以て閼氏と爲し。子を生まば必ず太子と爲さん。辯士をして風諭するに禮節を以てせしめよ。冒頓在らば固より子婿たり。死すれば外孫單于たり。豈外孫敢て大父と抗禮するを聞かんやと。上、長公主を遣らんと欲す。呂后泣て曰く。妾唯一女。奈何ぞ之を匈奴に棄てんと。乃ち家人の子を取りて公主となし。單于に妻し。敬をして往て和親の約を結ばしむ。

【訓讀】史記。白起は郿の人なり。善く兵を用ふ。秦の昭王に事へ。武安君と號す。秦趙の壘を攻め。數戰を挑む。趙の將廉頗壁を堅うして出でず。秦、人をして反

白起降を坑にす

子趙括將耳。廉頗易與。趙王既怒頗數敗。又聞反間之言。因使括代頗。秦使起爲上將軍。括至擊秦車。秦軍佯敗走。張二奇兵以劫之。趙軍分而爲二。糧道絶。秦發河内民年十五以上。悉詣長平。遮絶趙救及糧食。趙卒不得食。四十六日。皆内陰相殺食。來攻秦壘。不能出。括出銃卒自搏戰。秦軍射殺括。括軍敗。卒四十萬人降。起計曰。趙卒反覆。非盡殺之。恐爲亂。乃挾詐盡坑殺之。前後斬首虜四十五萬人。趙人大震。

注解【堅壁】城壘を堅固に守ること【反間】敵を惑はす流言【馬服】趙奢馬服君と稱す【奇兵】側面にかくし置く兵【糧道】兵食をはこぶみち【反覆】うらがへりすること【坑殺】あなをほりて生き埋にすること

王陽囊衣

前漢王吉字子陽。子駿孫崇

間を爲さしむ。曰く秦獨馬服の子趙括が將たるを畏るゝのみ。廉頗は與し易しと。趙王既に頗が數敗るゝを怒り。又反間の言を聞く。因て括をして頗に代らしむ。括至りて秦の軍を擊つ。秦の軍僞りて敗走し。二奇兵を張り。以て之を劫かす。趙の軍分れて二となり。糧道絶ゆ。秦河内の民年十五以上を發し。悉く長平に詣らしめ。趙の卒食を得ざる。趙の卒は反覆。盡く之を殺すに非れば。恐らくは亂を爲んと。乃ち詐を挾み。盡く之を坑殺し。前後斬首虜四十五萬人。趙人大に震る。

訓讀前漢の王吉。字は子陽。子の駿孫の

並至御史大夫。崇平帝時爲大司空。自吉至崇。世名清廉。然材器名稱稍不能及父。而祿位彌隆。皆好車馬衣服。其自奉養。極爲鮮明。而亡金銀錦繡之物。及遷徙去處。所載不過蓑衣。不蓄積餘財。去位家居。亦布衣疏食。天下服其廉。而恠其奢。故俗傳王陽能作黃金。

【註解】【清廉】清白廉潔【材器】きりやり【名稱】名聲【鮮明】さらびやか【遷徙】住居を轉ずること【蓑衣】一蓑の衣我俗語にて云へは風呂敷包一個【布衣】もめん【疏食】粗末の食【奢】車馬の鮮明なを云ふなり

馬援薏苡

後漢馬援在交阯。常餌薏苡實。能輕身省慾。以勝瘴氣。南方薏苡實大。援欲以爲種。軍還載之一車。時人以爲南土珍恠。權貴皆望之。援時方有寵。故莫以聞。卒後有上書譖之者。以爲前所載還。皆明珠

崇並に御史大夫に至る。崇平帝の時。大司空となる。吉より崇に至り。世清廉に名あり。然れども材器名稱は稍く父に及ぶこと能はず。而して祿位は彌隆なり。皆車馬衣服を好み。其自ら奉養する極めて鮮明たれども。而も金銀錦繡の物なし。遷徙處を去るに及び。載る所蓑衣に過ぎず。餘財を蓄積せず。位を去りて家居すれば。亦布衣疏食す。天下其廉に服して。其奢を怪しむ。故に俗傳ふ。王陽能く黃金を作ると。

馬援の薏苡

【訓讀】後漢の馬援。交阯に在り。常に薏苡の實を餌とし。能く身を輕くし慾を省き。以て瘴氣に勝つ。南方の薏苡實大なり。援以て種と爲んと欲し。軍還るとき之を一車に載す。時人以爲く。南土の珍怪なりと。權貴皆之を望む。援時に方に寵あり。故に以て聞するなし。卒する後上書

文犀。

【註解】【薏苡】本草に云ふ薏苡仁は紅白花を開き實を結びて青白色形珠に似て稍長し一名回々米又西番宮林と呼ぶ俗名草球鬼今の所謂鳩麥の類か【有寵】天子に愛せらるもやうあむ【文犀】もやうある犀角

張敞畫眉

前漢張敞字子高。平陽人。徙杜陵。爲京兆尹。長安市偸盜尤多。敞視事。窮治所犯。盡行法罰。枹鼓稀鳴。市無偸盜。敞本治春秋。以經術自輔。其政頗雜儒雅。表賢顯善。不醇用誅罰。以此能自全。然無威儀。罷朝會。走馬章臺街。使御吏驅。自以便面拊馬。又爲婦畫眉。長安中傳張京兆眉憮。有司以奏。宣帝問之。對曰。臣聞。閨房之內。夫婦之私。有過於畫眉者。上愛其能。弗備責也。後爲冀州刺史。盜賊禁止。守太原。太原郡清。

【註解】【偸盜】ぬすびと【枹鼓】非常を戒むる大鼓

して之を譖る者あり。以て前に載せ還る所は皆明珠文犀なりと爲す。

西番類か【瘴氣】南方の邪氣【珍恠】めづらしきたから【望之】其分與なのぞ

張敞畫眉を畫く

【訓讀】前漢の張敞。字は子高。平陽の人なり。杜陵に徙り。京兆の尹となる。長安の市。偸盜尤多し。敞事を視て。犯す所を窮治し。盡く法罰を行ふ。枹鼓鳴ること稀に。市に偸盜無し。敞本春秋を治め。經術を以て自ら輔け。其政頗る儒雅を雜へ。賢を表はし善を顯はし。醇ら誅罰を用ゐず。此を以て自ら全うす。然れども威儀無し。朝會より罷けば。馬を章臺の街に走らせ。御史をして驅らしめ。自ら便面を以て馬を拊つ。又婦の爲に眉を畫く。長安中。張京兆の眉憮を傳ふ。有司以て奏す。宣言之を問ふ。對へて曰く。閨房の內。夫婦の私は。眉を畫くに過る者ありと。上其能を愛して備に責めず。後冀州の刺史となり盜賊禁止し。

枹【儒雅】學者の趣味【章臺】娼妓の居るまち【畫眉】妻のために筆を取りてまゆずみをひくなり、化粧の手つだひ

太原に守たれば太原郡清し。

【眉憮】媚嫵なり眉の畫きやうのうつくしきが流行となりしなり

謝鯤折齒

晉書。謝鯤字幼輿。陳國陽夏人。少知名。通簡有高識。不修威儀。東海王越辟爲掾。任達不拘。坐除名。鯤清歌鼓琴。不以屑意。隣家高氏女有美色。鯤嘗挑之。女投梭折其兩齒。時人爲之語曰。任達不已。幼輿折齒。鯤聞之。傲然長嘯曰。猶不廢我嘯歌。後爲王敦長史。嘗使至都。明帝在東宮。見之甚相親重。問曰。論者以君方庾亮。自謂何如。答曰。端委廟堂。使百寮準則。鯤不如亮。一丘一壑。自謂過人。終豫章太守。

謝鯤齒を折る

【訓讀】晉書謝鯤。字は幼輿。陳國陽夏の人。少うして名を知らる。通簡にして高識あり。威儀を修めず。東海王越。辟して掾となす。任達拘らず。坐して名を除かる。鯤清歌琴を鼓し。以て意に屑とせず。隣家高氏の女。美色あり。輿嘗て之を挑む。女梭を投じ。其兩齒を折る。時人之が語を爲して曰く。任達已まず。幼輿齒を折ると。鯤之を聞き。傲然長嘯して曰く。猶我嘯歌を廢せず。後王敦が長史となる。嘗て使して都に至る。明帝東宮にありて之を見、甚だ相親重す。問ふて曰く。論者君を以て庾亮に方ふ。自ら謂ふに如何ぞ。答へて曰く。廟堂に端委し百僚を準則せしむるは。鯤亮に如かず。一丘一壑は自ら謂へらく人に過ぎたりと。豫章の太守に終る。

【語解】【通簡】通達簡率【除名】職をやめさる【不以屑意】職をやめられしを何とも思はぬこと【梭】織具【已齒】二字押韻【不廢我嘯歌】齒を折らるいもうそぶきたふにさかしつかへ無しと【邱壑】山野にある事

伯成辭耕

莊子曰。堯治天下。伯成子高立爲諸侯。堯授舜。舜授禹。伯成子高辭爲諸侯而耕。

【註解】【授】天下を以て ゆづるなり

嚴陵去釣

後漢嚴光字子陵。會稽餘姚人。少與光武同遊學。光武即位。乃變名姓。隱身不見。帝思其賢。乃令以物色訪之。後齊國上言。有一男子。披羊裘釣澤中。帝疑其光。乃備安車玄纁。聘之。三反而後至。舍於北軍。給牀褥。大官進膳。車駕幸其館。光臥不起。帝即臥所撫光腹。良久乃張目熟視曰。昔唐堯著德。巢父洗耳。士故有志。何至相迫乎。帝歎息而去。復引入論道舊故。相對累日。因共偃臥。光以足加帝腹上。

伯成辭して耕す

【訓讀】莊子に曰く。堯天下を治め。伯成子高立て諸侯となる。堯、舜に授け、舜、禹に授く。伯成子高諸侯たることを辭して耕す。

嚴陵去りて釣る

【訓讀】後漢の嚴光。字は子陵。會稽餘姚の人なり。少うして光武と同じく遊學す。光武位に即き。乃ち名姓を變じ。身を隱して見えず。帝其賢を思ひ。乃ち以て物色して之を訪はしむ。後齊國上言す。一男子あり。羊裘を披て。澤中に釣ると。帝其光なるかを疑ひ。乃ち安車玄纁を備へて之を聘し。三反して後に至る。北軍に舍し。牀褥を給し。大官膳を進め。車馬其館に幸す。光臥して起きず。帝臥所に即き。光が腹を撫す。良久しくして。乃ち目を張り熟視して曰く。昔唐堯德を著はし。巢父耳を洗ふ。士故志あり。何ぞ相迫るに至るやと。帝歎息して去る。

明日太史奏。客星犯帝座甚急。帝笑曰。朕故人子陵共臥耳。除諫議大夫不屈。乃耕於富春山。後人名其釣處爲嚴陵瀨焉。

【註解】【物色】人相書を以て尋ぬる也【羊裘】ひつじのかはごろも【安車】みたるくるま【玄纁】玄は黑色纁はあかくろき色士太夫の服色なり【三反】三度往復するなり【客星犯帝坐】帝坐は北斗星の在る所客星は他より來る星

二疏散金

復引いて入れ。舊故を論道すること累日因て共に偃臥し。光足を以て帝の腹上に加ふ。明日太夫奏す。客星帝坐を犯すこと甚だ急なりと。帝笑ふて曰く。朕が故人子陵共に臥すのみと。諫議太夫に除すれども屈せず。乃ち富春山に耕す。後人其釣處を名けて嚴陵瀨となす。

二疏金を散ず

前漢疏廣字仲翁。東海蘭陵人。兄子受字公子。宣帝時。廣爲太子太傅。受爲少傅。朝廷以爲榮。後廣謂受曰。吾聞知足不辱。知止不殆。功遂身退。天之道也。豈如歸老故鄉以壽命終。父子遂乞骸骨。許之。上賜黃金二十斤。太子贈五十斤。公卿大夫。故人邑子。設祖道。供張東都門外。送者車數百兩。既歸鄉里。日具酒食。

【訓讀】前漢の疏廣字は仲翁。東海蘭陵の人。兄の子受字は公子。宣帝の時。廣、太子の太傅となり。受少傅となり。朝廷以て榮となす。後廣、受に謂て曰く。吾聞く足を知れば辱められず。止まるを知れば殆からず。功遂げ身退くは。天の道なり。豈故郷に歸老し。壽命を以て終るに如んやと。父子遂に骸骨を乞ひ。之を許す。上黃金二十斤を賜ひ。太子五十斤を贈る。公卿大夫。故人邑子。祖道を設けて東都門外に供張す。送者の車、數百兩。

請二族人故舊賓客一與相娛樂。輙賣レ金以供レ具。或勸レ買二田宅一。廣曰。吾顧自有二舊田廬一。令二子孫勤一力其中一。足二以供一衣食一。此金聖主所二以惠一養老臣一也。故樂與二鄉黨宗族一共饗二其賜一。以盡二吾餘日一。族人悅服。皆以レ壽終。

【註解】【歸老】かへりてゐんきよする也【乞骸骨】退職をねがふ

既に郷里に歸り。日に酒食を具して。族人故舊賓客を請ひ。以て具に供す。輙ち金を賣りて。はんことを勸む。廣曰く吾顧ふに自ら舊田廬あり。子孫をして其中に勤力せしめば。以て衣食に供するに足らん。此金は聖主の老臣を惠養する所以なり。故に郷黨宗族と共に其賜を饗して。以て吾餘日を盡すことを樂むと。族人悅服し。皆壽を以て終る。

陸賈分槖

前漢陸賈楚人。有二口辯一。時中國初定。尉佗平二南越一。因王レ之。高祖使二賈賜一佗印一。爲二南越王一。賈至。尉佗魋結箕踞見レ賈。賈因說レ佗。佗蹷然起謝レ賈。留與飲數月。賜二賈槖中裝直千金一。佗送亦千金。賈令二佗稱レ臣。奉二漢約一。歸報。高帝大說。拜二太中大夫一。孝惠時病免。以二好時田

陸賈槖を分つ

【訓讀】前漢の陸賈は楚の人なり。口辯あり。時に中國初めて定まり。尉佗南越を平げ因て之に王たり。高祖賈をして佗に印を賜ひ。南越王と爲さしむ。賈至る。尉佗魋結箕踞して。賈を見る。賈因て佗に說く。佗蹷然として起て賈に謝し。留めて飲むこと數月。賈に槖中の裝直千金なるを賜ひ。它の送りもの。亦千金。賈、佗をして臣と稱し。漢の約を奉せしめ。

地善往家焉。有五男。乃出槖中裝。賣千金。分其子。子二百金。令爲生産。賈常乘安車駟馬。從歌鼓琴侍者十人。寶劒直百金。謂其子曰。與女約。過女女給人馬酒食。極欲十日而更。所死家得寶劒。後爲陳平書數事。平用其計。乃以奴婢百人。車馬五十乘。錢五百萬。遺賈爲飲食費。

【註解】【魋結】椎髻に同じ。髻を結びて槌の頭の如き形を云ふ

歸り報す。孝惠の時。高帝大に説び。太中大夫に拜す。以て。往て家す。病て免し。好時の田地善き裝を出し。千金に賣り。五男あり。乃ち槖中の ごとに二百金。生産を爲しめ。其子に分つ。賈常に安車駟馬に乘り。歌ひて琴を皷する侍者十人。寶劒益百金なるを從へ。其子に謂て曰く。女に過らば。女人馬の酒食を給せよ。欲を極むること十日にして更へん。死する所の家。寶劒を得んと。後陳平の爲に數事を盡す。平其計を用ひ。乃ち奴婢百人。車馬五十乘。錢五百萬を以て。賈に遺り。飲食の費となす。

【箕踞】兩足を前に伸して坐す。傲慢の態【蹙然】俄に起つ貌也【十日而更】十日を經れば更に他の子の家に移る

無鹽如漆

古列女傳。鍾離春者。齊無鹽邑之女。宣王正后也。爲人極醜無雙。臼頭深目。長指大節。昂鼻結喉。肥項少髮。折腰出胷。皮膚若漆。年四十無所容入。衒嫁不售。乃拂拭短褐。自詣宣王。願備後宮之掃除。宣

訓讀 古列女傳。鍾離春は齊の無鹽邑の女にして宣王の正后なり。人となり極醜無雙。臼頭深目。長指大節。昂鼻結喉。肥項少髮。折腰出胷。皮膚は漆の若く。年四十にして容入する所無し。衒嫁すれども售れず。乃ち短褐を拂拭し。自ら宣王に至り。後宮の掃除に備らんと願ふ。宣

王方置酒於漸臺。左右聞之。掩口大笑。王召見之。無鹽爲陳四殆。王於是立折漸臺。罷女樂。退諂諛。去彫琢。進直言。延側陋。立太子。拜無鹽爲后。而齊國大安。

【注解】【臼頭】臼の如き大なるあたま【深目】おくぼみたる目【長指大節】ゆびながくほれのふしふとし【昂鼻】仰向きたる鼻【結喉】くびれたるのんど【肥項】こゑたるくび【少髮】うすきかみ【折腰】まがりたるこし【出胷】つきいでたるむね【容入】よめに入るところ【衒嫁不售】とつがんとあせるもとつぐなし【拂拭短褐】短褐は賤者の服なり其塵をはらひ取ること【後宮掃除】おくのさうじやく【四殆】四のあやふき事即ち政治上の四失なり【諂諛】へつらひ【彫琢】ゑりきざみたるもの【側陋】賢にして貧賤なる人々

王方に漸臺に置酒し。左右之を聞き。口を掩ふて大に笑ふ。王召して之を見る。無鹽爲に四殆を陳す。王是に於て立ろに漸臺を折き。女樂を罷め。諂諛を退け。彫琢を去り。直言を進め。側陋を延き。太子を立て。無鹽を拜して后と爲し。而して齊國大に安し。

姑射若氷

莊子曰。貌姑射之山。有神人居焉。肌膚若氷雪。綽約若處子。不食五穀。吸風飲露。乘雲氣。御飛龍。而遊乎四海之外。

【注解】【綽約】たをやか【處子】わかきをとめ

邾子投火

左氏傳。邾子在門臺。臨廷。闇以缾水沃廷。邾子望見之。怒。

姑射氷の若し

【訓讀】莊子に曰く。貌姑射の山に神人居れり。肌膚は氷雪の若く。綽約として處子の若し。五穀を食はず。風を吸ひ露を飲み。雲氣に乘じ。飛龍に御して四海の外に遊ぶと。

邾子火に投ず

【訓讀】左氏傳。邾子門臺に在りて。廷に臨む。闇缾水を以て廷に沃ぐ。邾子之を望

閽曰。夷射姑旋焉。命執之。不得。滋怒。自投于牀。廢于鑪炭。爛。遂卒。莊公卞急而好潔。故及是。莊公即郲子謚。旋小便。廢隋也。

【註解】【門臺】門上の臺なり【閽】門卒なり【旋】小便なり【執之】夷射姑を捕へんとす【鑪炭】炭火燼中の初め庭階のうるほひしを見て怒りしに門卒曰く是れ夷射姑の小便なりと誣言す其實門卒がめの水をそいぎしなり然し其前夜酒を飲み餘肉を携へて門を出るとき門卒之を乞ふも與へず門卒の杖を奪ひ其頭を打つ門卒怨を抱きて是訐を訐け夷射姑を陷れんとせしなり是に於て莊公大に怒り夷射姑を捕へ其不潔の罪を正さんとせしが捕へ得ず憤怒の餘牀上より爐中に落ち燒死したるなり莊公云々以下數字は筆者の評論其文の簡古愛すべきなり

見して怒る。閽曰く夷射姑旋せりと。命じて之を執へしむれども得ず。怒自ら牀より投じ。鑪炭に廢ちて爛れ。遂に卒す。莊公卞急にして潔を好む。故に是に及ぶ。莊公は即ち郲子の謚。旋は小便。廢は隋つなり。

王思怒蠅

魏志。王思濟陰人。領豫州刺史。思能吏。然苛碎無大體。官至九卿。封列侯。魏略曰。思性急。嘗執筆作書。蠅集筆端。驅去復來。如是再三。思恚怒。自起逐蠅。不能得。還取筆擲地。蹋壞之。

【註解】【苛碎】小さきことにこせ〳〵するなり【恚怒】いかる

王思蠅を怒る

【訓讀】魏志。王思は濟陰の人なり。豫州の刺史を領す。思は能吏なり。然れども苛碎にして。大體なし。官九卿に至り。列侯に封ぜらる。魏略に曰く。思性急なり嘗て筆を執りて書を作り。蠅筆端に集る。驅去れば復來る。是の如きこと再三。思恚怒し。自ら起て蠅を逐ひ。得ること能はず。還りて筆を取り地に擲ち。蹋て之を壞ると。

馬良白眉

蜀志。馬良字季常。襄陽宜城人。兄弟五人。並有才名。鄉里爲之諺曰。馬氏五常。白眉最良。良眉中有白毛。故以稱之。

【註解】【五常】兄弟五人字の下皆常の字あり故に云ふ

阮籍青眼

晉書。阮籍字嗣宗陳留尉氏人。爲散騎常侍。轉從事中郎。不拘禮教。能爲青白眼。見禮俗之士。以白眼對之。及嵇喜來弔。籍作白眼。喜不懌而退。喜弟康聞之。乃齎酒挾琴造焉。籍大悅。乃見青眼。由是禮法之士。疾之若讎。

【註解】【來弔】時に籍母の喪中なり【禮法之士】禮義を守り形式を重んずるもの

馬良の白眉

【訓讀】蜀志。馬良字は季常。襄陽宜城の人なり。兄弟五人並に才名あり。鄉里之が諺を爲りて曰く。馬氏の五常白眉最良と。良の眉中に白毛あり。故に以て之を稱す。

阮籍の青眼

【訓讀】晉書。阮籍字は嗣宗。陳留尉氏の人散騎常侍となり。從事中郎に轉ず。禮教に拘らず。能く青白眼を爲し。禮俗の士を見れば白眼を以て之に對す。嵇喜來り弔ふに及びて。籍白眼を作す。喜不懌びずして退く。喜が弟康之を聞き。乃ち酒を齎らし。琴を挾みて造る。籍大に悅び。乃ち青眼を見はす。是に由て禮法の士之を疾むこと讎の如し。

黥布開關

前漢黥布六人。姓英氏坐法。

【訓讀】前漢の黥布は六の人。姓は英氏法に

黥布關を開く

黥欣然笑曰人相我當刑而王幾是乎開者笑之布以論輸驪山驪山之徒數十萬人布與其徒長豪傑交通乃率其曹耦亡之江中爲羣盜衆數千人後以兵屬項梁楚兵常勝功冠諸侯兵皆服屬楚者以布數以少敗衆也項籍引兵西至關不得入又使布等先從間道破關下軍遂得入至咸陽布爲前鋒項羽封

坐して黥せられ。欣然として笑ふて曰く人我を相したりき。當に刑せられて王たるべしと。幾んど是かと。聞く者之を笑ふ。布以て論せらして驪山に輸す。驪山の徒數十萬人。布其徒長の豪傑と交通す乃ち其曹耦を率ゐ。亡げて江中に之き。羣盜となる。衆數千人。後兵を以て項梁に屬す。楚の兵常に勝ち。功諸侯に冠たり。兵皆楚に服屬するもの。布が數少を以て衆を敗るを以てなり。項籍兵を引と西關に至り。入ることを得ず。又布等

諸將立布爲九江王歸漢封淮南王。

【黥】【六人】六安縣の人【黥】いれずみ【以論輸驪山】罪狀を論告せられ輸送の徒卒となりて驪山に赴く【徒長】徒卒の長【曹耦】徒卒のなかま

張良燒棧

前漢項羽自立爲西楚霸王。王梁楚地更立沛公爲漢王。王巴蜀漢中漢王就國張良辭歸韓漢王送至褒中因說

をして先づ間道より關下の軍を破らしめ遂に入て咸陽に至ることを得。布前鋒となり。項羽諸將を封ずるとき。布を立て九江王となす。漢に歸して淮南王に封せらる。

張良棧を燒く

【訓讀】前漢。項羽自立して西楚の霸王となり。梁楚の地に王たり。更めて沛公を立て。漢王となし。巴蜀漢中に王たらしむ。漢王國に就き。張良辭して韓に歸る。漢

漢王燒絕棧道以備諸侯盜兵亦示羽無東意廼使良還行燒絕棧道

【註解】【棧道】かけはし

曼倩三冬

前漢東方朔字曼倩平原厭次人武帝舉方正賢良文學材力之士待以不次之位四方上書言得失自衒鬻者以千數朔上書曰臣少失父

王送りて褒中に至り。因て漢王に說く。棧道を燒絕し。以て諸侯の盜兵に備へ。亦羽に東する意無きを示せと。廼ち良をして還るとき。行棧道を燒絕せしめたり。

曼倩の三冬

【訓讀】前漢の東方朔字は曼倩。平原厭次の人なり。武帝方正賢良文學材力の士を擧げ。待つに不次の位を以てす。四方上書して得失を言ひ。自ら衒鬻する者千を以て數ふ。朔上書して曰く。臣少うして父

母長養兄嫂年十二學書三冬文史足用十五學擊劍十六學詩書誦二十二萬言十九學孫吳兵法戰陣之具鉦鼓之敎亦誦二十二萬言又常服子路之言年二十二長九尺三寸目若懸珠齒若編貝勇若孟賁捷若慶忌廉若鮑叔信若尾生若此可以爲天子大臣矣朔文辭不遜高自稱譽上偉之令待詔公車

母を失ひ。長して兄嫂に養はる。年十二にして書を學ぶ三冬にして。文史用ゐるに足り。十五にして擊劍を學び。十六にして詩書を學び。二十二萬言を誦んず。十九にして孫吳の兵法。戰陣の具。鉦鼓の敎を學び。亦二十二萬言を誦んず。又常に子路の言を服し。年二十二にして長九尺三寸。目は懸珠の若く。齒は編貝の若く。勇は孟賁の若く。捷は慶忌の若く。廉は鮑叔の若く。信は尾生の若し。此の若くんば以て天子の大臣たるべしと。朔

後常爲郎。與枚皐郭舍人。俱在左右。詼諧而已。

【注解】【不次之位】常例に拘らず拔擢する位【衒鬻】てらひひさぐ。卽ち自己のオ能を稱して選任を乞ふなり【嫂】あに【三冬】冬の三月間【鉦鼓】軍陣のかねたいこ【子路之言】勇あらしむべしの言【懸球】たまなかけたかなる如く目の明を云ふ【編貝】貝をあみてならべし如く齒の美しきを云ふ【孟賁】勇士【慶忌】王子慶忌はやわざを以てきこゆ【鮑叔】齊の大夫【尾生】女子と橋下に遇ふことを約し信義を守りて溺死せし人【詼諧】諧は調に同し滑稽詼諧のことなり

文辭不遜高く自ら稱譽す。上之を偉として公車に待詔せしめ。後常に郎となり。枚皐郭舍人と俱に左右に在りて。詼諧するのみ。

陳思七步

世說曰。魏文帝嘗令東阿王七步作詩。不成當行法。卽應聲爲詩曰。煮豆持作羹。漉豉以爲汁。箕在釜下然。豆在釜中泣。本自同根生。相煎何太急。帝深有慙色。東阿卽陳思王曹植舊封。

【注解】【七步】七あし歩むうちに一首の詩を作る也【文帝】曹操の子曹丕なり陳思王は其弟【漉豉】味噌をこす【箕】豆稈なり以て薪となす【同根】兄弟にたとふ

陳思七步

【訓讀】世說に曰く。魏の文帝嘗て東阿王をして。七步に詩を作らしむ。成らざれば當に法に行ふべしと。卽ち聲に應じて詩を爲り曰く。豆を煮て持して羹と作し。豉を漉し以て汁と爲す。箕は釜下に在りて然え。豆は釜中に在りて泣く。本同根より生ず。相煎る何ぞ太だ急なると。帝深く慙色あり。東阿は卽ち陳思王曹植の舊封なり。

王述忿狷

晉書。王述字懷祖。東海太守

王述の忿狷

【訓讀】晉書。王述字は懷祖。東海の太守

承之子。安貧守約。不求聞達。但性急爲累。嘗食雞子。以筯刺之。不得。大怒。擲地。雞子圓轉不止。便下牀以屐齒踏之。又不得。瞋甚。掇內口中。齧破而吐之。

【註解】【忿狷】いかりやすく心の狹きこと【守約】節約を守る【聞達】名聞利達【雞子】にはとりのたまご【屐齒】げたのは

荀粲惑溺

荀粲傳曰。粲字奉倩。常以婦

承の子貧に安んじ約を守り。聞達を求めず。但性急なるを累となす。嘗て雞子を食ふに。筯を以て之を刺んとして得ず。大いに怒り。地に擲つ。雞子圓轉して止まず。便ち牀を下り。屐齒を以て之を踏んとす。又得ず。瞋ること甚し。掇ふて口中に入れ。齧み破りて之を吐けり。

荀粲の惑溺

【訓讀】荀粲傳に曰く。粲字は奉倩。常に以

人才智不足論。自宜以色爲主。驃騎將軍曹洪女有美色。粲聘焉。容服帷帳甚麗。專房歡宴。歷年後婦病亡。傅嘏往唁。粲不哭而神傷。嘏問曰。婦人才色並茂爲難。子遺才而好色。此自易遇何哀之甚。粲曰。佳人難再得。顧逝者不能有傾國之色。未可謂之易遇。痛悼不能已。歲餘亦亡。世說曰。奉倩與婦至厚。冬月婦病

らく婦人の才智は論ずるに足らず。自ら宜しく色を以て主と爲すべしと。驃騎將軍曹洪の女。美色あり。粲聘す。容服帷帳甚だ麗はし。房を專らにして歡宴す。年を歷て後婦病て亡す。傅嘏往て唁ふ。粲哭せずして神傷む。嘏問ふて曰く。婦人は才色並茂なるを難しとなす。子は才を遺れて色を好む。此自ら遇ひ易し。何ぞ哀むことの甚しきやと。粲曰く。佳人は再び得難し。顧ふに逝く者傾國の色有る能はざるも。未だ之を遇ひ易しと謂

熱。乃出中庭自取冷。還以身熨之。婦亡。奉倩後少時亦卒。以是獲譏於世。見惑溺篇。

【註解】【容服】容貌衣服　【帷帳】とばり　【唁】弔ふに同じ又唁に作る　【神傷】精神哀傷す　【熨】彼と此と溫度を平均するなり

ふべからずと。痛悼して已むこと能はず。歳餘にして亦亡す。世説に曰く。奉倩婦と至つて厚し。冬月婦熱を病む。乃ち中庭に出でゝ。自ら冷を取りて還り。身を以て之を熨す。婦亡し。奉倩も後少時にして亦卒す。是を以て譏を世に獲たりと。惑溺篇に見ゆ。

蒙求通解大尾

明治四十三年七月廿三日印刷
明治四十三年七月廿六日發行

蒙求通解
（定價金八十五錢）

選註者　井上經重
發行者　神田區裏神保町二番地　高橋爲吉
印刷者　東京市本所區番場町四番地　笹川欽藏
印刷所　東京市本所區番場町四番地　凸版印刷株式會社本所分工場

發行所　東京市神田區裏神保町二番地　崇文館
（振替口座東京六千百八十八番）